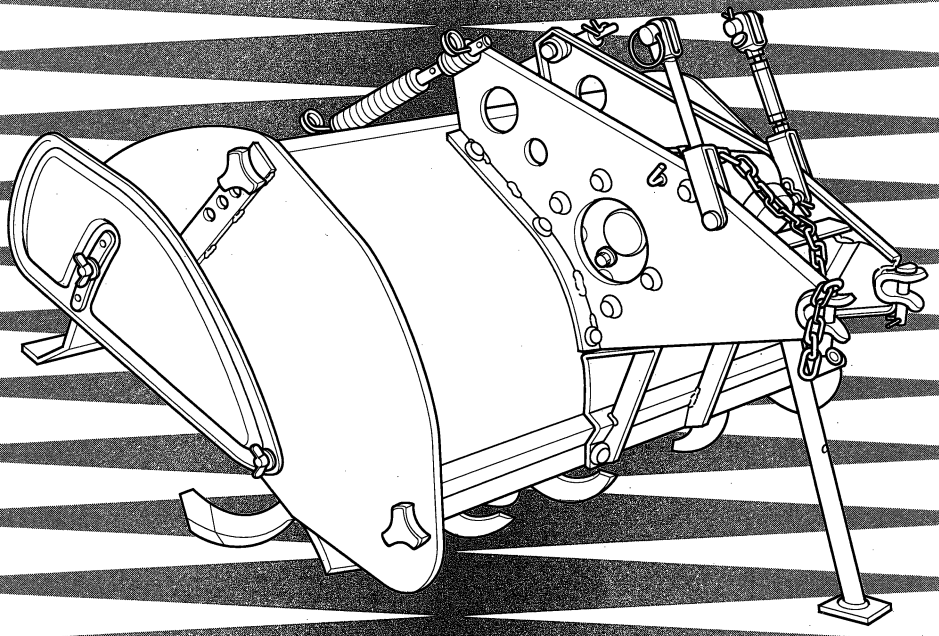
ホンダ センタドライブロータリ

R1000CD

取扱説明書



お買いあげありがとうございました。ご使用になる前に
必ずこの取扱説明書をお読みください。

はじめに

このたびはホンダ ロータリをお買いあげいただきありがとうございます。
この取扱説明書は、商品の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明しています。
ロータリを操作する前に本書とトラクタの取扱説明書をよくお読みいただき、十分理解してからご使用ください。取扱説明書はわからない事があったときに読むことができるよう**大切に保存**し、日常の手引きとしてご活用ください。
なおこの取扱説明書では、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。ご了承ください。

安全に関する表示について

本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他のものが損傷する可能性があるもの

この取扱説明書は

・作業をするときは、必ず携帯してください。
・ロータリを貸与または譲渡される場合は、ロータリと一緒にお渡しください。
・紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。
・保証書は良くお読みいただき裏面のサイン欄にご署名の上、大切に保管してください。

目　　次

安全作業のお願い……3

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう……4

安全ラベル……12

各部の名称と取扱いをおぼえましょう……13

1.ロータリスタンド……13

2.リヤ カバー……14

3.サイド カバー……14

4.クサリ……14

ロータリの取付け、取外し……15

取付けかた……15

取付け後の作動確認……19

取外しかた……19

カウンタウェイトの取付け……20

運転する前に点検しましょう……21

ロータリの固定のしかた……21

ロータリ爪の点検……22

各部の締付け点検……22

耕うん作業……23

下降速度調整ノブ……24

クサリ……25

ロータリ爪……27

耕うん方法……29

耕うん順序……30

作業時のロータリの上昇方法……30

やさしい点検、整備……31

定期点検表……31

チェーン ケース オイルの交換……32

各部の清掃……33

各部の給油およびグリス塗布……34

故障のときは……35

尾輪の使いかた……36

残耕処理刃(アタッチメント)の使いかた……38

残耕処理刃の取付け、取外し……38

エクステンション カバーの取付けかた……39

主要諸元……40

安　全　作　業　の　お　願　い

ロータリをご使用になる前に本書およびトラクタの取扱説明書をよくお読みいただき、十分理解してからご使用ください。
本書の中に安全に関する項目を「安全にお使いいただくためにこれだけは必ず守りましょう」(４頁)に記載しています。また本文中にも⚠**警告**、⚠**注意**としてそのつど取りあげています。

・ロータリやトラクタに貼ってある安全ラベルをよくお読みになり警告に従ってください。
・ロータリを他の人に貸す場合は、この「取扱説明書」をよく読んでいただくようご指導ください。また取扱いの方法や安全に関する項目を説明してください。

⚠安全にお使いいただくために**これだけは必ず守りましょう**

１．一般的な注意項目…… 4
２．ロータリの脱着…… 6
３．ほ場への出入り…… 7
４．アユミ板を使うときは…… 8
５．ほ場での作業…… 8
６．作業途中や走行途中での駐車・点検・清掃…10
７．使用後の手入れ……11
８．長期保管……11

⚠ 安全にお使いいただくために これだけは必ず守りましょう

・イラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。ご了承ください。

1.一般的な注意項目

こんな人は、運転をやめましょう

・病気や薬物の影響、その他の理由で正常な運転のできない人



・酒気をおびた人



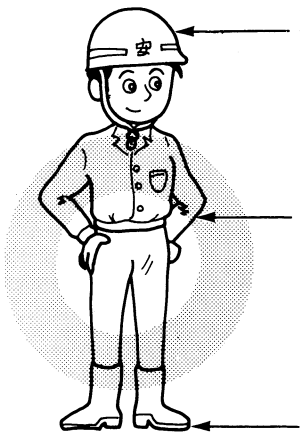
・子供
・未熟練者

・妊娠している人



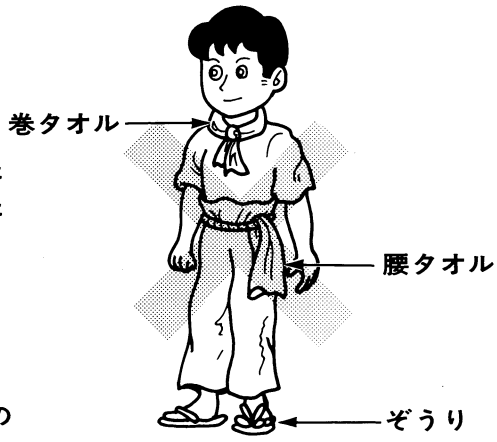
作業に合った服装をしていますか

〈良い服装〉



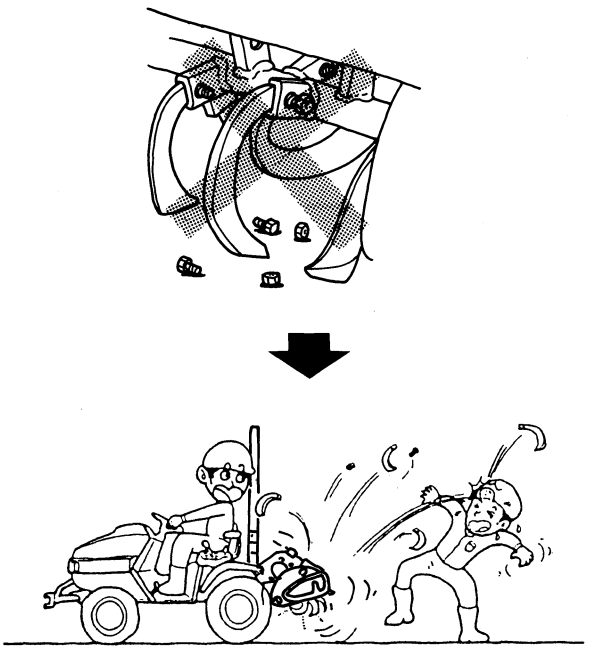
安全のため、ヘルメット、安全靴、保護メガネや手袋などを必要に応じて使用してください。

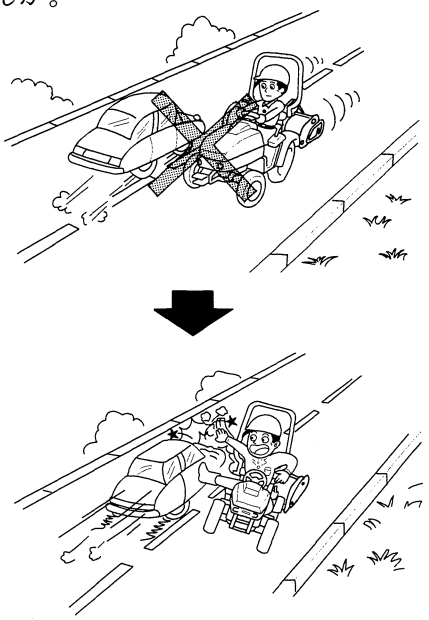
〈悪い例〉



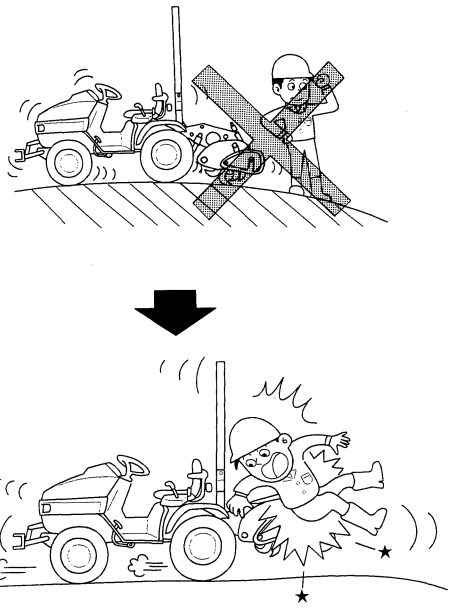
ダブダブの服や破れた服、かさばった大きな服は着用しないでください。
これらの服は回転部分や操縦装置などにひっかかることがあり、事故の原因になります。

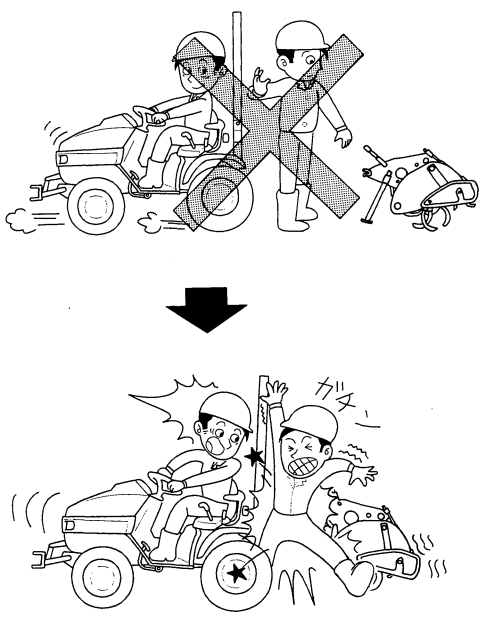
安全にお使いいただくために これだけは必ず守りましょう

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●本説明書に従って各部の点検を行ってください。(22頁参照) ●カバーやラベル類、その他の部品を外して操作しないでください。 ●各部のボルト・ナットがゆるんでいないか確認してください。 ●誤った部品を取付けたり改造をしないでください。思わぬ事故の原因となることがあります。	

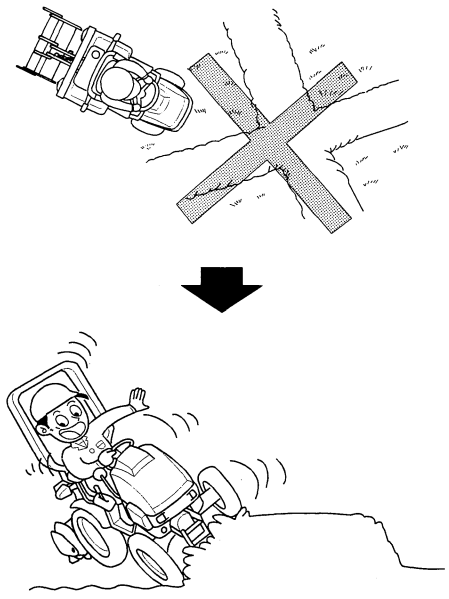
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●ロータリをつけたまま公道を走行することは法律で禁じられています。ロータリをつけたまま公道を移動する場合は、トラックに積んで運搬してください。	ロータリをつけたまま、公道を走行していませんか。 

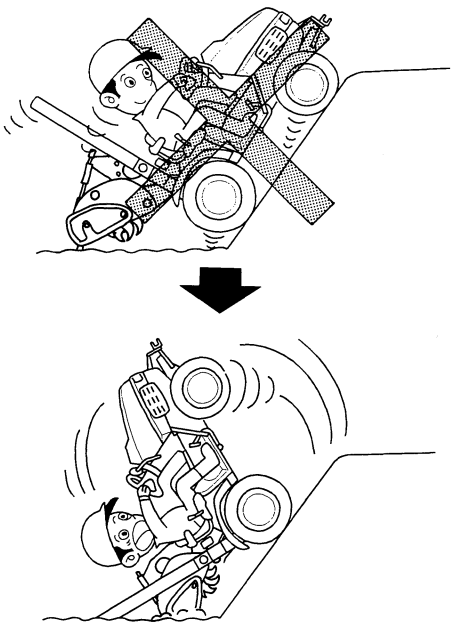
2.ロータリの着脱

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●着脱は平坦な場所でエンジンを停止し、必ず駐車ブレーキをかけてください。 ●PTO軸が停止していることを確認してください。 ●夜間は適切な照明を用いてください。	エンジンは停止しましたか 

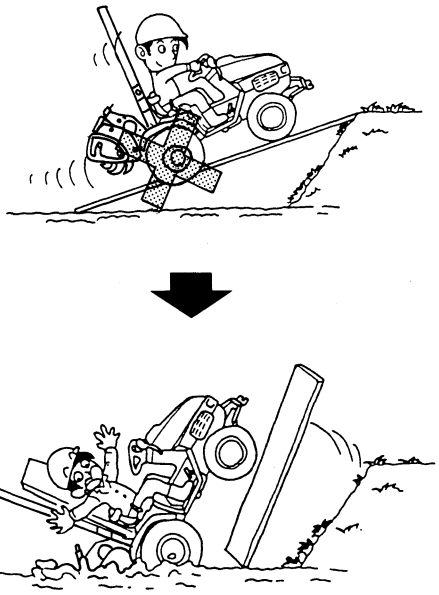
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●共同作業をするときは、合図をし合いながら、トラクタとロータリの動きに注意して行ってください。 ●ロータリを着脱するときは、トラクタとロータリの間に人が入らないように注意してください。 ●ロータリの下へ入ったり、足を入れたりしないでください。 ●トラクタとロータリを接続するピンやユニバーサル ジョイントのロックピンが確実にセットされているか確認してください。	人はいませんか 

3.ほ場への出入り

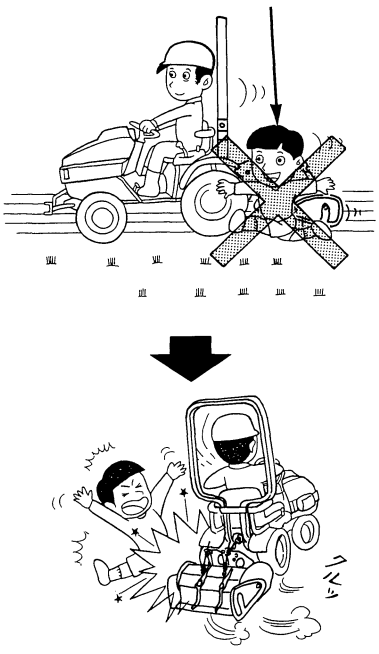
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●ほ場への出入りは、トラクタを畦、溝に直角に向けて止め、必ず直角方向で行ってください。 ●エンジン回転を下げ、低速で行ってください。 ●出入り場所をよく確認してください。 ●段差の大きいほ場の溝越えのときは、アユミ板を使用するか出入り口に傾斜や渡り橋を設けてください。 ●ロータリが斜面の上側になるように出入りしてください。	低速で直角に出入りしてますか 

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●ほ場への出入りにはアユミ板を使用してください。	アユミ板を使ってますか 

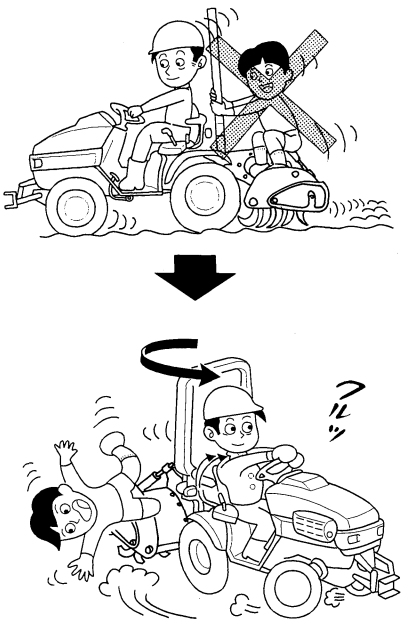
4.アユミ板を使うときは

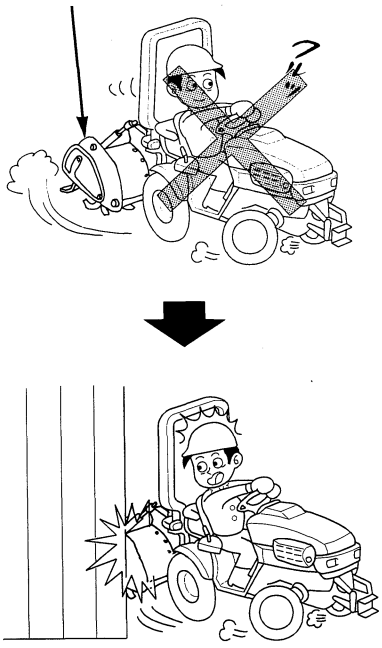
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●アユミ板を使うときは、畦、溝などに対してトラクタを直角に止めてください。 ●アユミ板の上では脱輪しないようハンドルを大きく操作しないでください。 ●トラクタの車輪幅に合わせ、アユミ板を左・右平行にして、ハンドルは直進状態にしてから、真直ぐに低速で走行してください。 ●ロータリが斜面の上側になるように走行してください。 ●ロータリの爪がアユミ板にひっかからないよう注意してください。	低速で脱輪に注意してますか 

5.ほ場での作業

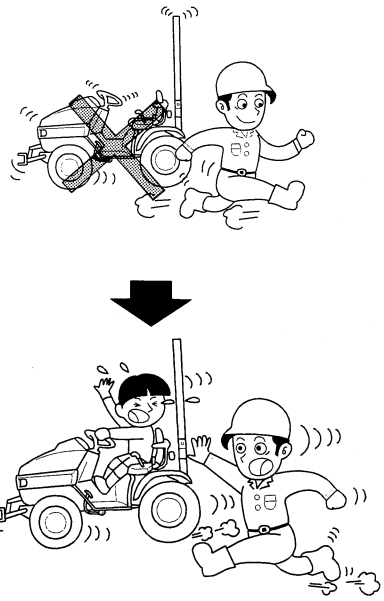
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●ロータリ爪は鋭く尖っていて、高速で回転しています。間違って接触すると大ケガをするおそれがあります。 作業する場所には人や動物を近づけないでください。特に旋回するときは、前後左右に注意してください。 ●畦ぎわで旋回するときは、畦に人がいないか確認してください。 高速では絶対に旋回しないでください。 横転など重大な事故につながります。 ●カミナリが鳴り出したらエンジンを停止し、トラクタから離れて安全な場所に避難してください。	周囲の安全確認(人は近くにいませんか) 

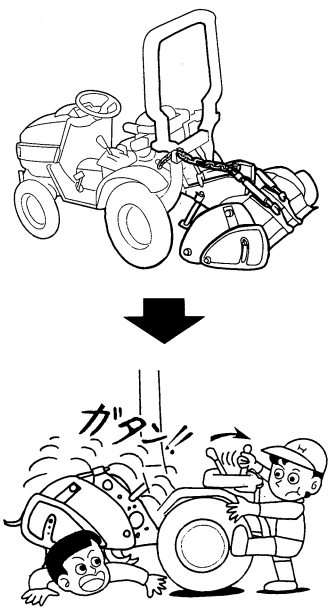
⚠ 安全にお使いいただくために これだけは必ず守りましょう

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●乗車定員は１名です。必ずお守りください。 ●ロータリを使用するときは、必要に応じてトラクタの前部に適正なウエイトを取付けてください。 ウエイトは純正ウエイトを使用してください。 ●ロータリを装着したときの走行は、低速で行い、急発進、急停止、急旋回は避けてください。	運転者以外に人を乗せていませんか 

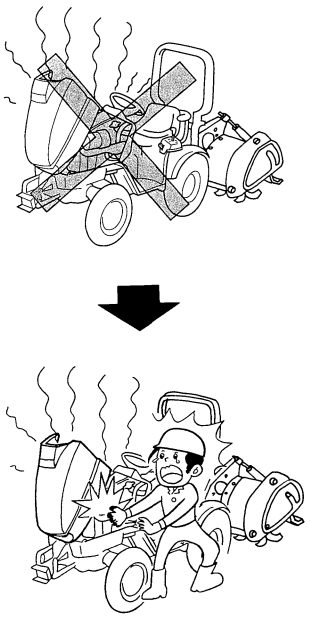
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●前後左右に注意しながら壁ぎわなどで旋回するときは、ロータリの位置を十分考えてハンドルを操作してください。 ●発進するときは、エンジン回転を下げて、クラッチをゆっくり離して、スムーズに発進させてください。 ●作業に合った爪軸回転と車速を選んでください。万一、硬いほ場などで作業中に本機が飛び出した場合は、すぐにクラッチを切り、ブレーキ ペダルを踏んでより低い車速にしてください。	障害物に注意していますか 

6.作業途中や走行途中での駐車・点検・清掃

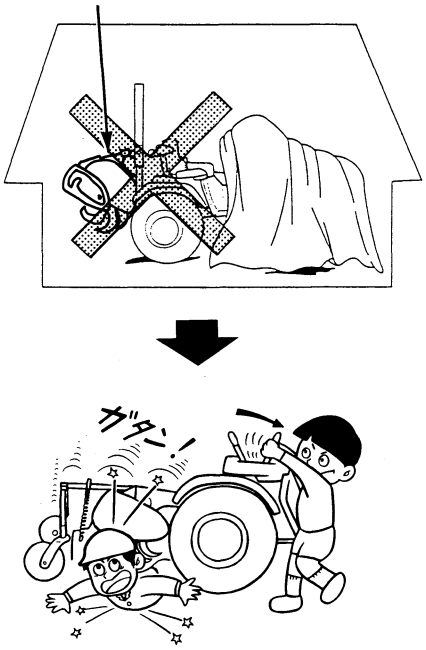
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●平坦な場所に止め、エンジンを停止してください。 ●運転席から降りるときは、駐車ブレーキをロックして、エンジン スイッチ キーを外してください。	エンジンは停止していますか 

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●ロータリを点検・調整する場合には、ロータリの下降を防止するため、下降速度調整ノブを〝おそい〟(右方向)にいっぱいに締めて油圧をロックしてください。 ●ロータリの落下防止用クサリを併用して点検・調整をしてください。	クサリをセットしていますか 

7.使用後の手入れ

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●エンジンを停止してください。 ●エンジン停止直後は、エンジン、マフラなどが高温になっています。点検、整備などは十分に冷えてから行ってください。 ●各部の清掃を行ってください。 (特にマフラ及びエンジンの高温部分のゴミ) ●ロータリの清掃、点検、交換時は下降速度調整ノブで油圧をロックしてください。 (ロータリの落下防止用クサリはタルミがないようにセットしてください) ●格納するときは、ロータリを下げ、駐車ブレーキをロックして、エンジン、マフラが完全に冷えてから格納してください。	冷えていますか 

8.長期保管

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●駐車ブレーキをロックして風通しの良い乾燥した場所にトラクタを水平にして格納してください。 ●ロータリは外すか、地面に接地するまで下げておいてください。 ●バッテリ アース コードを外してください。 ●後輪の前後に車輪止めをしてください。 ●トラクタにカバーをかけるときは、エンジン、マフラが冷えてから行ってください。	作業機は下げてありますか 

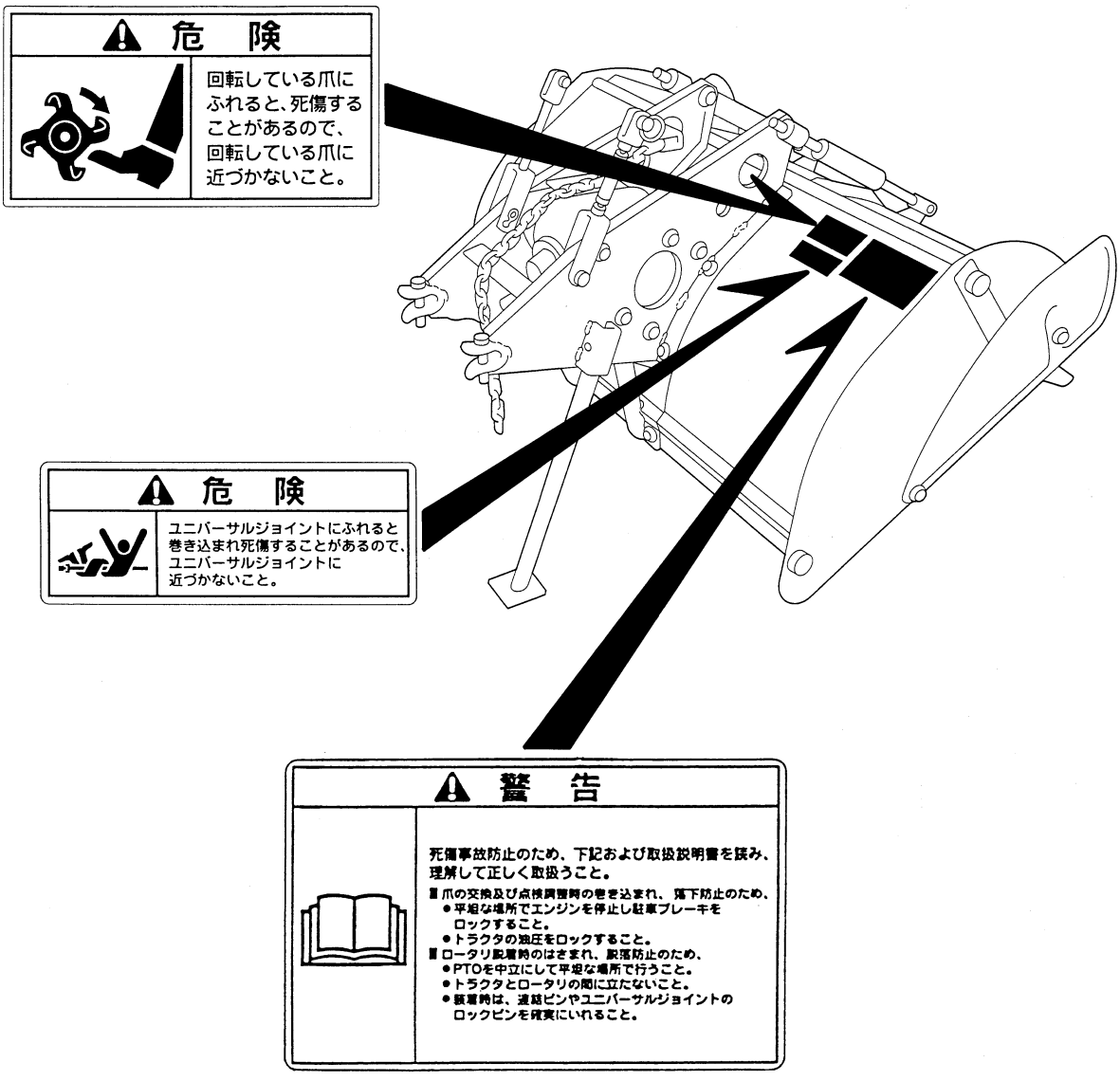
安全ラベル

ロータリを安全に使用していただくために、ロータリに安全ラベルが貼られています。ラベルをすべて読んでからご使用ください。

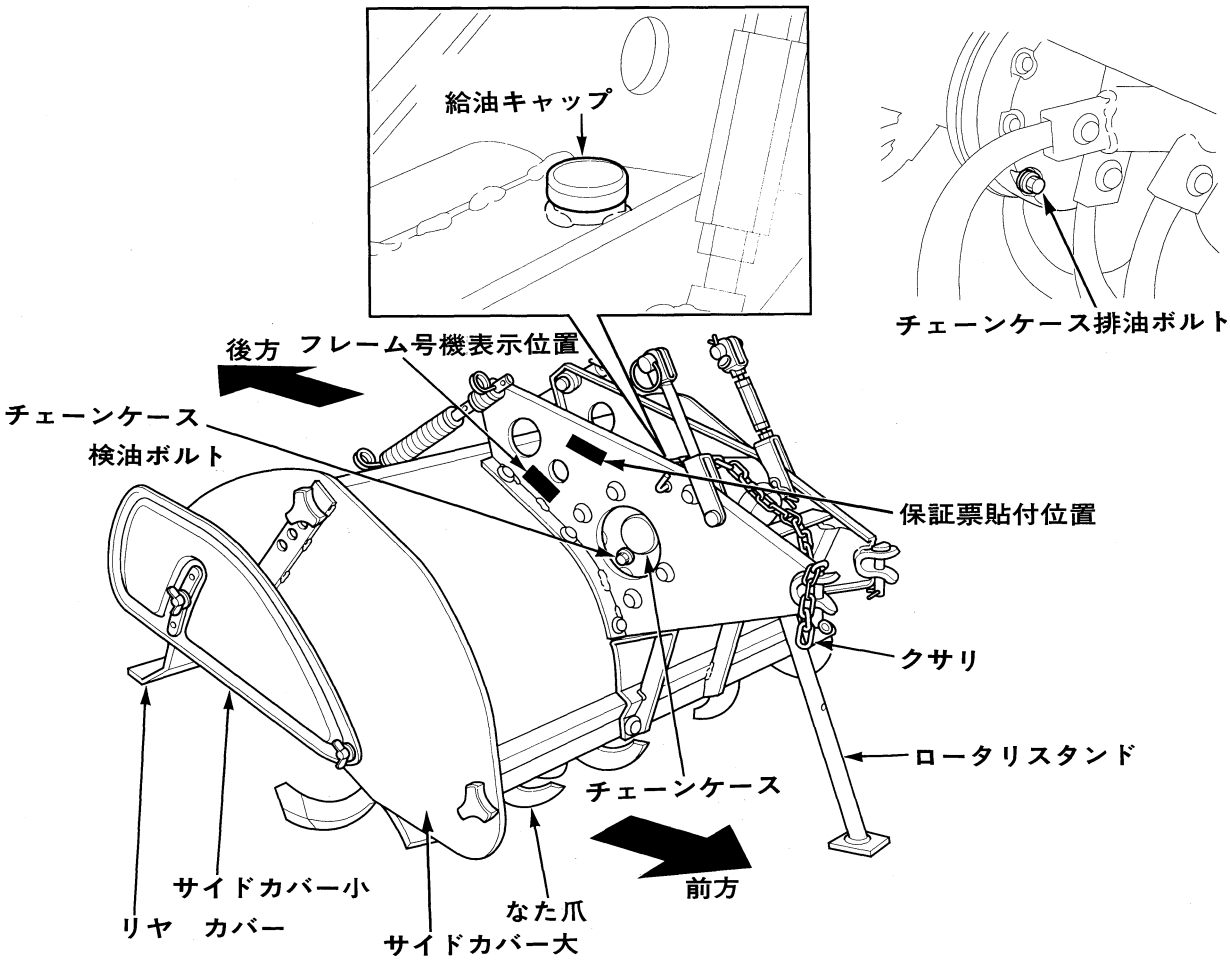
ラベルはハッキリと見えるように、きれいにしておいてください。

ロータリに貼ってあるラベルが汚れたり、傷ついたり、なくなったりして読めなくなったら新しいラベルに貼り替えてください。安全ラベルが貼られている部品を交換する場合はラベルも新しい物を貼ってください。

ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。



各部の名称と取扱いをおぼえましょう



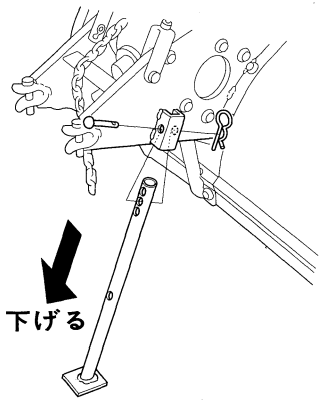
1．ロータリスタンド

ロータリを本機から外したときに使います。

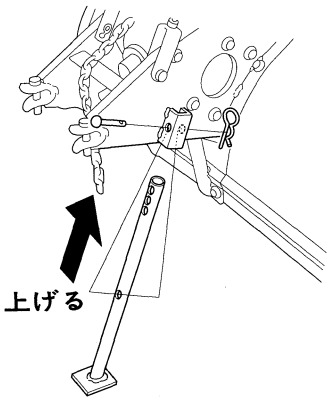
ロータリの脱着のときはピンの位置を調整し、ロータリピッチの高さを本機に合わせます。

ロータリを本機に取付けたときは、スタンドを上げた状態にしてください。

トラクタへ装着するときおよび取外しのとき



作業するときおよび移動のとき

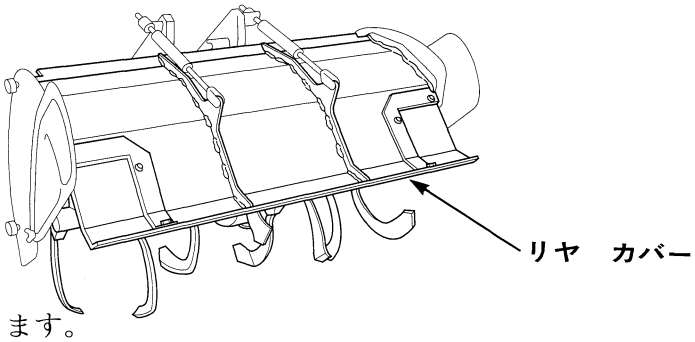


2．リヤ カバー

後部への土や、石はね防止と整地のために使用します。

⚠警告

リヤ カバーを作業に応じてセットするときは、トラクタを停止し、PTO軸変速レバーを〝中立〟の位置にし、エンジンを停止して行ってください。エンジンをかけた状態での作業は、大ケガをするおそれがあります。



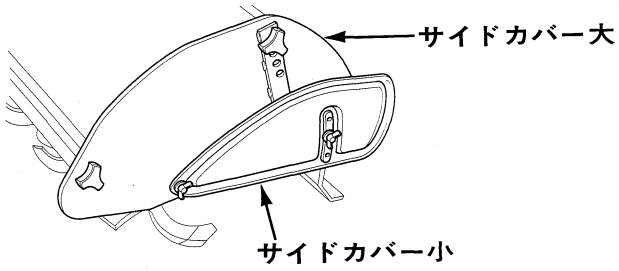
3．サイド カバー

横方向への土の逃げを防止します。

作業するほ場および深さに応じてカバーを上下させてください。

⚠警告

- **サイド カバーの調節は、トラクタを停止し、PTO軸変速レバーを〝中立〟の位置にし、エンジンを停止して行ってください。エンジンをかけた状態での作業は、大ケガをするおそれがあります。**
- **サイド カバーの取付けボルト、ナットを取外すときは、サイド カバーが落下しないように手で支えてください。落下したサイド カバーが足などに当たり思わぬケガをするおそれがあります。**

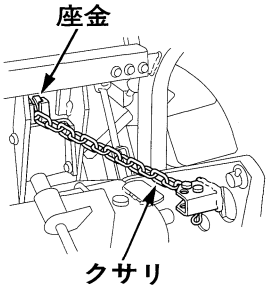


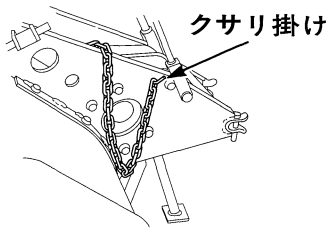
4．クサリ

ロータリの耕深調整や落下防止のために付いています。

クサリを適当な長さで座金に引っかけ耕深調整や落下防止をしてください。

オプションの尾輪を使用するときやロータリを外したときは、クサリ掛けに引っかけておいてください。





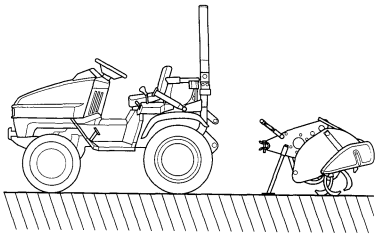
ロータリの取付け、取外し

⚠警告

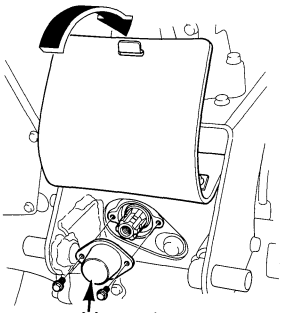
- **ロータリの取付け、取外しは平坦な場所で行い、周囲の安全に十分注意してください。トラクタが動き出すおそれがあります。**
- **トラクタから降りるときは、駐車ブレーキをロックして、PTO軸変速レバーが〝中立〟の位置になっていることを確認し、エンジンを停止してください。誤ってエンジンを始動しないようにエンジン スイッチ キーを抜いてください。**
- **ロータリに見合うカウンタウエイトを本機に装着してください。前輪の荷重が不足し横転などの事故を起こす場合があります。**

取付けかた

1. ロータリおよびトラクタを平坦な場所に置き、ロータリが下図の状態であることを確認してください。



2. エンジンが停止している状態で、PTO軸カバーを取外してください。

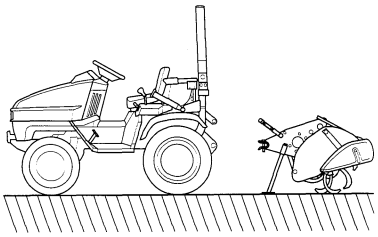


ＰＴＯ軸カバー

3. PTO軸変速レバーが〝**中立**〟の位置になっていることを確認し、トラクタをロータリ取付け部の近くまで後進させてください。

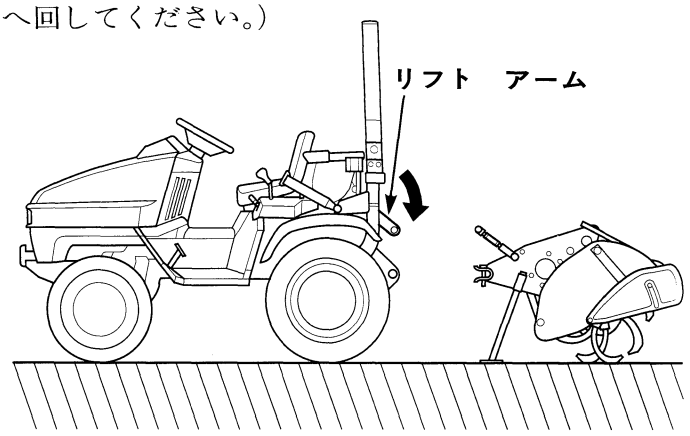
⚠警告

ロータリとトラクタの間に人が入らないように注意してください。はさまれるおそれがあります。

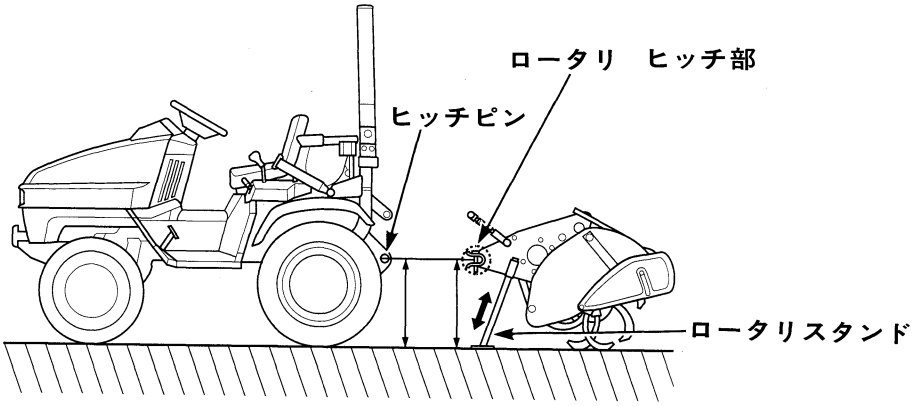


4. 駐車ブレーキをかけ、PTO軸変速レバーが〝**中立**〟の位置になっていることを確認し、エンジンを停止してください。誤ってエンジンが始動しないようにエンジン スイッチ キーを抜いてください。

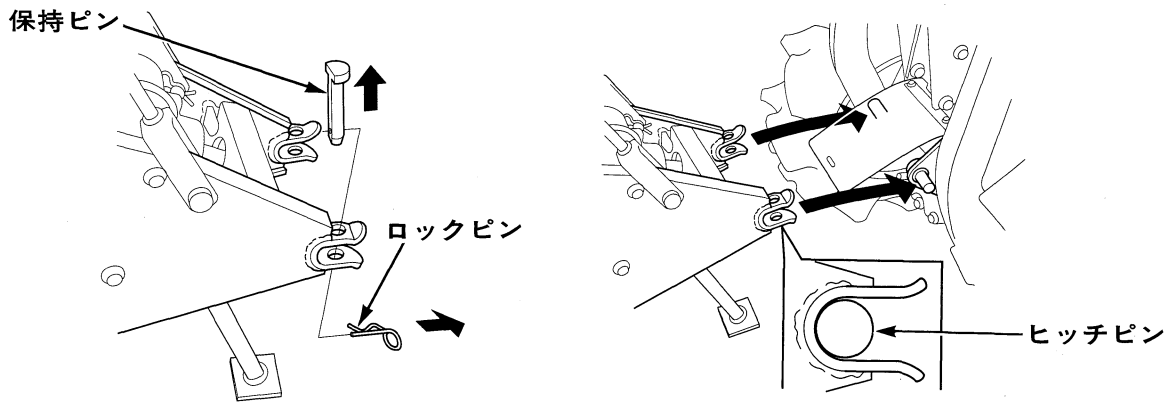
5.油圧リフト レバーを〝**下降**〟の位置にしてリフト アームを下げてください。(リフト アームが下がらない場合は手で下げてください。また重い場合は下降速度調整ノブを〝**はやい**〟の方向へ回してください。)



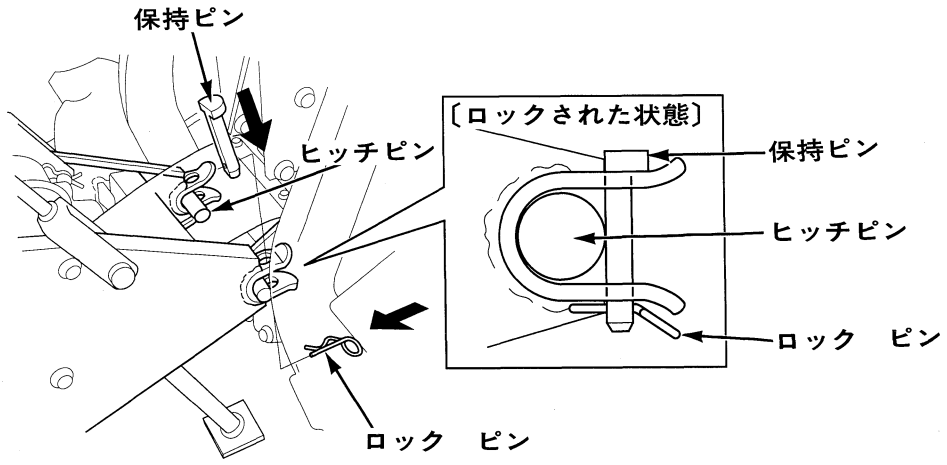
6.ロータリスタンドの長さをピン穴の位置で調節して、ロータリのヒッチ部をトラクタのヒッチ ピン高さに合わせてください。



7.ロータリのヒッチ部に取付けられている保持ピンとロック ピンを外します。
変速レバーを後進の低速側に入れてヒッチ ピンがヒッチ部の奥にかかるまでゆっくりトラクタを後進させ、エンジンを止めてください。

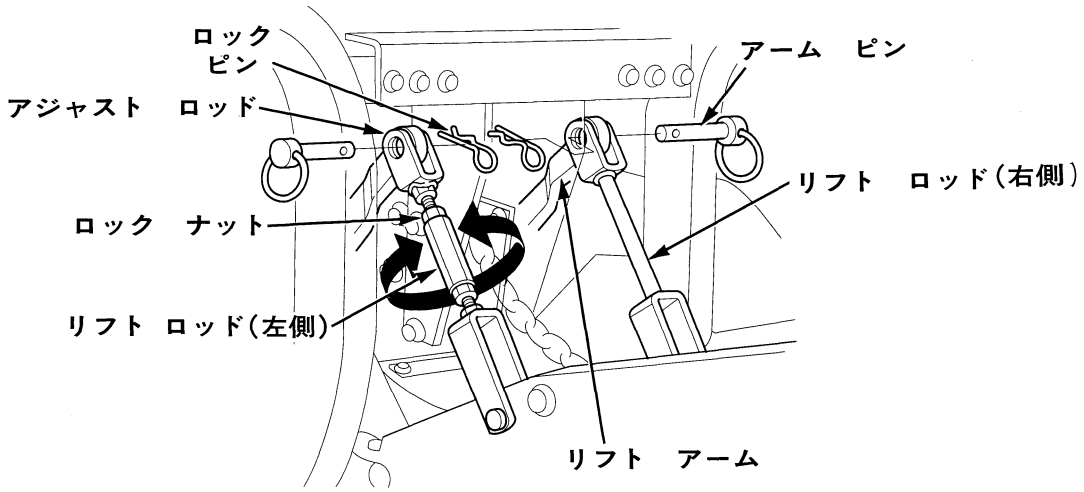


8.保持ピンの平らな面をヒッチピンに接するようにします。保持ピンを穴に入れロックピンで完全に固定してください。



9.リフト アームとリフト ロッドをアーム ピンで取付け、ロック ピンで完全に固定してください。

先に右側を取付けて、次に左側を取付けます。もし取付け穴が合わないときは、ロック ナットをゆるめアジャスト ロッドを回して調整してください。調整後、ねじれがないようにして、ロック ナットを確実に締付けてください。

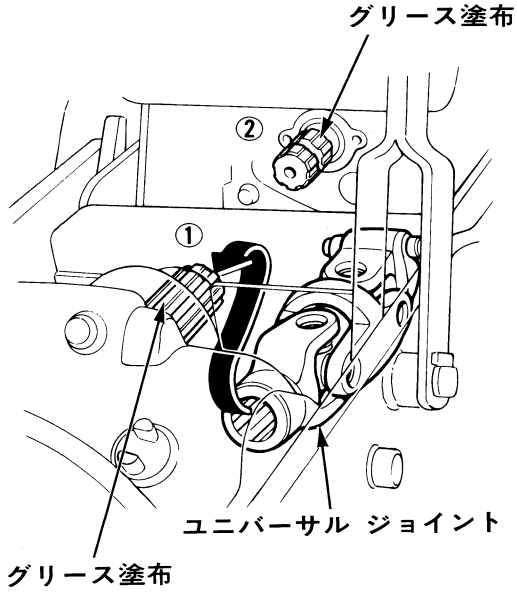


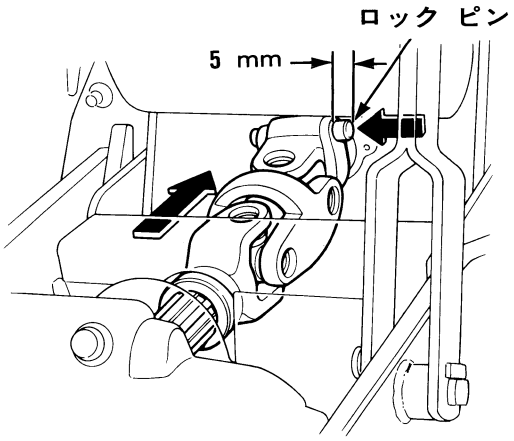
10.ユニバーサル ジョイントを先にロータリ側①へ押し込み次にPTOシャフト②にロック ピンを押しながら入れてください。

・シャフトにグリースを薄く塗布してください。

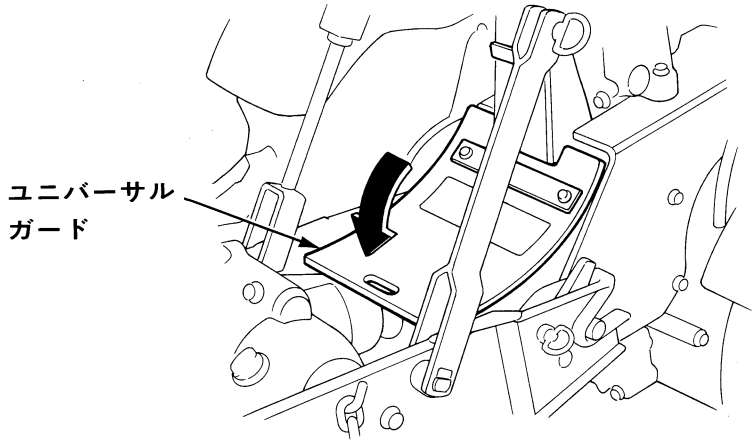
⚠注意

ユニバーサル ジョイントが確実にロックされているか手で引いて抜けないことを確認してください。ロック ピンの先端が 5 mm以上出ているのが正常です。確実にロックされていない場合は脱落するおそれがあります。





11.ユニバーサル ガードを下げてください。



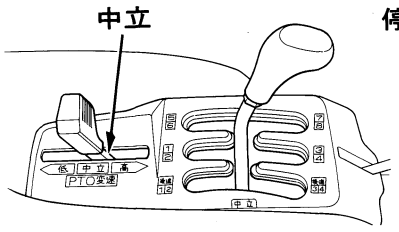
12.ロータリ スタンドを上げた位置にし、ロック ピンで固定してください。

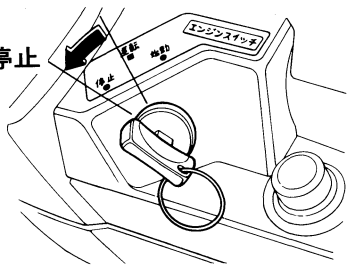
取付け後の作動確認

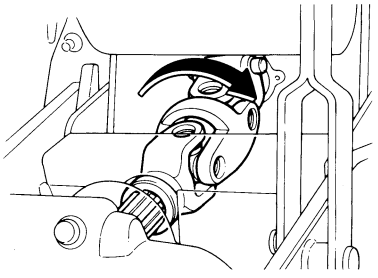
⚠警告

- **油圧リフト レバーおよび下降調整ノブ操作は、適正に行ってください。また、周囲の安全に十分注意してください。**
- **下降速度調整ノブの〝おそい〟（右方向）の締付けが不十分な場合、油圧リフト レバーを〝下降〟に倒すと、エンジンが停止していてもロータリは下降します。**
- **トラクタから降りるときは、駐車ブレーキをロックして、PTO軸変速レバーが〝中立〟の位置になっていることを確認し、エンジンを停止してください。誤ってエンジンが始動しないようにエンジン スイッチ キーを抜いてください。**

1.ロータリを上昇させ、クサリを座金にかけて落下防止し、エンジンを停止させてから、PTO軸変速レバーを中立にして、ユニバーサル ジョイントが手で軽く回るか確認してください。

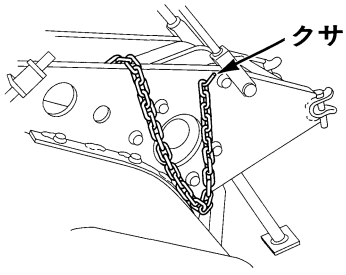


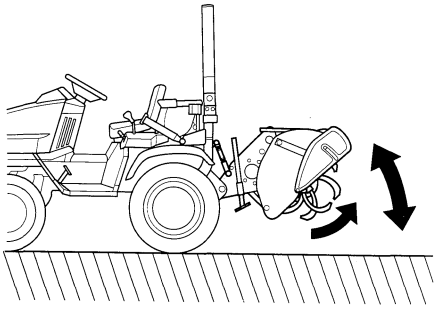




2.クサリを外しロータリのクサリ掛けにかけてから、ロータリを上昇、下降させて作動を確認してください。ロータリの下降速度の調整は24頁を参照してください。

ロータリを上昇させて爪軸を回したときに、大きな異音が発生する場合はロータリの上げ高さを調整してください。（本機取扱い説明書参照）



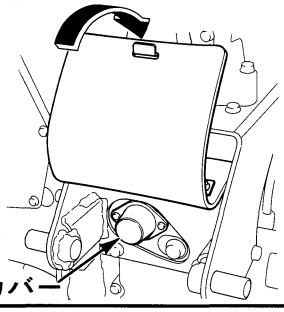


取外しかた

取外しは、取付けの逆の方法で行ってください。

⚠警告

ロータリを取外したときは、ユニバーサル ジョイントを外し、PTO軸カバーを取付けておいてください。カバーを取付けないでおくと衣類などが巻きついたり、ケガをするおそれがあります。



カウンタウエイトの取付け

⚠警告

ロータリ（作業機）に見合うカウンタ ウエイトを本機に装着してください。前輪の荷重が不足し横転など事故を起こす場合があります。

本ロータリ（R1000CD）を装着するときは、次の表にあるカウンタ ウエイトを本機に取付けるか、追加してください。

必要なウエイトは、タイプにより異なるので注意してください。

機種 / タイプ / カウンタ ウエイト			尾輪（オプション）なし										尾輪（オプション）装着時									
			RT130						RT130D				RT130						RT130D			
			R	RR	RA	L	LR	RAR	L	KL	LR	KLR	R	RR	RA	L	LR	RAR	L	KL	LR	KLR
フロントウエイト	メイン	59301-707-000（17.5kg）	●	○	●			○					●	○	●			○				
		59301-752-A20（15kg）								○		○								○		○
		59301-703-000（8kg）					●									●	●				▲	
	サブ	59351-703-003（13.5kg）	▲	●	▲			●					●	●	●			●				
		40A5905（25kg）																				●
ホイールウエイト		59101-752-890（20kg×2）		▲			▲	▲					▲	●	▲	▲	●	●				

○：標準でトラクタに装備されているウエイト

●：本ロータリを装着するとき追加が必要なウエイト

▲：使用する状況等により、必要に応じて取付けてください。

運転する前に点検しましょう

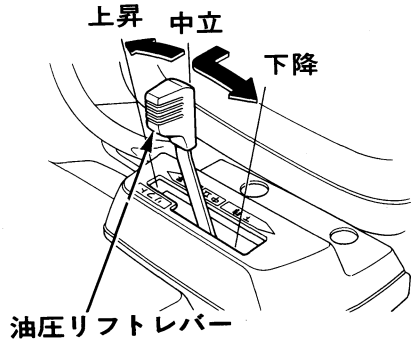
⚠警告

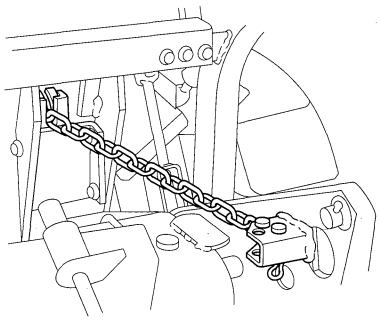
- **点検は平坦な場所でトラクタを水平に置き、必ずエンジンを停止してエンジン スイッチ キーを抜いてから行ってください。**
- **作業前の点検は故障を未然に防ぐため、またロータリを長持ちさせるためにも必ず行ってください。**
- **点検を行うときは、落下防止のクサリを掛け、下降調整ノブを〝おそい〟（右方向）にいっぱい回し油圧をロックしてロータリを固定してください。必ずロータリが落下しないことを確認してください。**
- **油圧リフト レバーを操作するときは周囲の安全を確認してください。下降速度調整ノブの〝おそい〟（右方向）の締付けが不十分な場合、油圧リフト レバーを〝下降〟に倒すと、エンジンが停止していてもロータリは下降します。ロータリの下に身体を入れると、はさまれて大ケガをする可能性があります。**

ロータリの固定のしかた

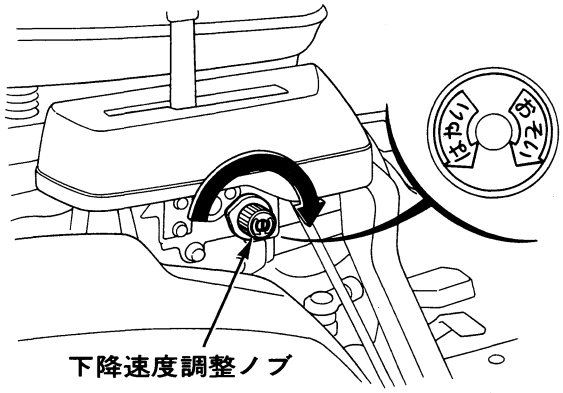
1.PTO軸変速レバー、主変速レバーが〝**中立**〟の位置にあることを確認し、エンジンを始動します。

2.油圧リフト レバーでロータリを最上段まで上昇させ、クサリを座金に掛けます。
油圧リフト レバーを〝**下降**〟の位置にし、ロータリを下げクサリを張ります。





3.下降速度調整ノブを〝**おそい**〟(右方向)に止まるまで回して油圧をロックし、ロータリを固定します。油圧リフト レバーを〝**下降**〟の位置にして作業機が落下しないか必ず確認してください。確認後、油圧リフト レバーを〝**中立**〟の位置に戻してください。



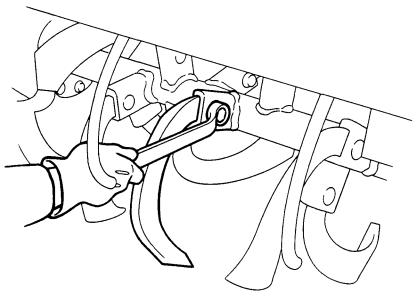
4.エンジンを停止し、エンジン スイッチ キーを外してください。

ロータリ爪の点検

⚠警告

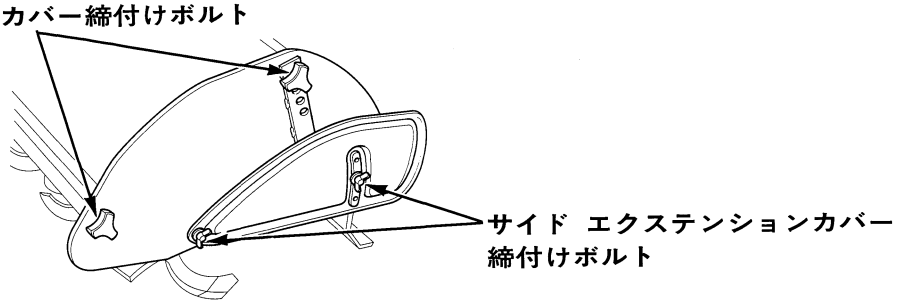
ロータリ爪の点検を行うときは、必ず皮手袋などの丈夫な手袋をしてください。ロータリ爪でケガをするおそれがあります。

1. ロータリを固定します。(21頁参照)
2. ロータリの爪の損傷、曲がり、ガタがないか点検してください。もし異常があったときは締付けまたは交換してください。交換方法は27頁を参照してください。

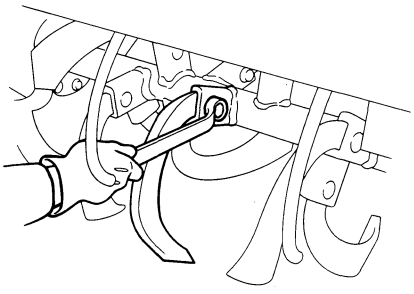


各部の締付け点検

■サイド カバー締付けボルトおよびサイド エクステンション カバー締付けボルトのゆるみはないですか。



■爪軸締付けボルトのゆるみはないですか。



耕　　う　　ん　　作　　業

ほ場での作業は、作物・耕地の形状・土壌条件などによって作業方法が異なります。ほ場に応じた作業方法を工夫して、安全かつ能率的な作業を行ってください。

⚠警告

回転しているロータリのユニバーサル ジョイント等回転部分に触れると、巻き込まれて大ケガをするおそれがあります。またロータリ爪は鋭く尖っていて、高速で回転しています。間違って接触すると大ケガをするおそれがあります。作業する場所には、人や動物を近づけないでください。ロータリの上に人や物を乗せないでください。

⚠注意

- **ロータリを後部に装着すると、前輪にかかる重量が変わり、前輪が浮き上がりやすくなります。特に発進するときは、エンジン回転を下げてクラッチ ペダルから足をゆっくり離して静かに発進してください。**
- **ほ場への出入りは、次の事項に注意してください。**
  - **–ブレーキペダルをセット（連結）していないと、ブレーキが片効きになり、トラクタが急旋回して転倒、転落などを引き起こし死傷するおそれがあります。**
  - **–ロータリを斜面の上側に向けるようにして、4WD(4駆)に切換えてください。斜めに登り降りせず直角に出入りしてください。**
  - **–高低差が大きい出入りのときは、アユミ板などを使用してください。ロータリ部が畦につかえてロータリ部を損傷するおそれがあります。**
  - **–すべり止めのついたアユミ板を使用してください。タイヤがぬれている状態では、ちょっとした傾斜でもスリップすることがあり危険です。**
- **旋回するときは、必ず速度を下げてください。高速で急旋回すると横転する危険があります。**
- **後進および旋回時は必ずロータリを上げてください。下げたままで後退または旋回を行うとロータリを損傷するばかりでなく危険です。**

取扱いのポイント

- **傾斜地を登る場合、ロータリの回転を停止した状態でロータリを下げて前進すると、前輪の浮き上がりが少なくなります。登りきったらロータリをゆっくり上げてください。**
- **ほ場での作業は4WD（4駆）をご使用ください。**
- **ほ場の状況、作業内容によってロータリ爪軸回転速度および走行速度が異なります。作業に合わせて決めてください。(29頁参照)**
- **下降速度調整ノブでロータリの下降速度を適切な速度に調整してください。(24頁参照)**
- **ほ場での作業を行う場合は、ブレーキ ペダルの連結金具を外し、左右のブレーキが別々に使用できるようにすると、旋回性を高めることができます。**
  畦ぎわで旋回する場合、油圧リフト レバーでロータリを上げ、ハンドルを切ると共に旋回側のブレーキ ペダルを踏むと、小回り旋回が行えます。(信地旋回)
- **軟弱地では、左右の車輪の抵抗が不均衡となって、片側の車輪が空転することがあります。このような場合は、デフ ロック ペダルを踏むと両輪が駆動され空転を防ぐことができます。**

⚠警告

- 調整、確認を行うときは、周囲の安全に十分注意してください。
- トラクタから降りるときは、駐車ブレーキをロックして、PTO軸変速レバーが〝中立〟の位置になっていることを確認し、エンジンを停止してください。誤ってエンジンを始動しないようにエンジン スイッチ キーを抜いてください。

下降速度調整ノブ

下降速度調整ノブを回すことにより、ロータリの下降速度を調整することができます（上昇速度は調整できません）。

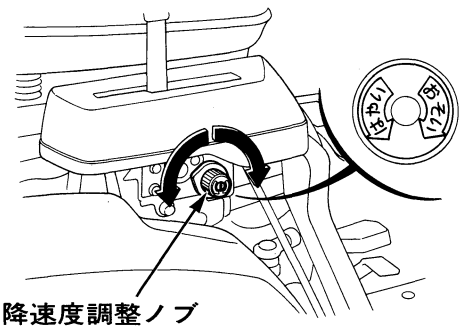
⚠警告

- 周囲の安全に十分注意して、油圧リフト レバーおよび下降速度調整ノブ操作を適切に行ってください。
- 調整を行うときは必ずロータリを固定して、ロータリが落下しないことを確認してください。（21頁参照）
- 下降速度調整ノブの〝おそい〟（右方向）の締付けが不十分な場合、油圧リフト レバーを〝下降〟に倒すと、エンジンが停止していてもロータリは下降します。ロータリの下に身体を入れると、はさまれて大ケガをする可能性があります。
- 下降速度調整ノブを一度に多くゆるめると（左方向）、ロータリが思わぬ速さで下降することがあります。¼回転ごとに確認してください。

〝おそい〟（右回り）に回すと……下降速度が遅くなります。

〝はやい〟（左回り）に回すと……下降速度が早くなります。

右に止まるまで回すと……下降しなくなります。（点検、調整時使用します）



下降速度調整ノブ

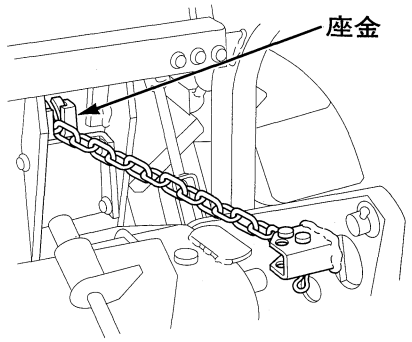
・作業機の下降速度は、最も上がった位置から接地するまで１～２秒を目安としてください。

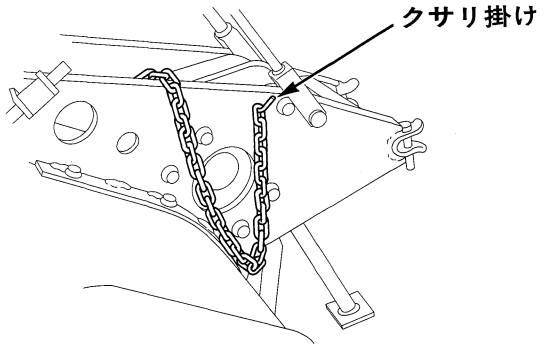
取扱いのポイント

- 下降速度はロータリの重さ、外気温度などによって異なります。
- ロータリを交換したときは、必ず再調整してください。

クサリ

ロータリを上げて移動するときには、下降防止のため必ずロータリを上げてたるみなくクサリを座金にセットしてください。座金からクサリを外したときはロータリのクサリ掛けに必ず掛けてください。



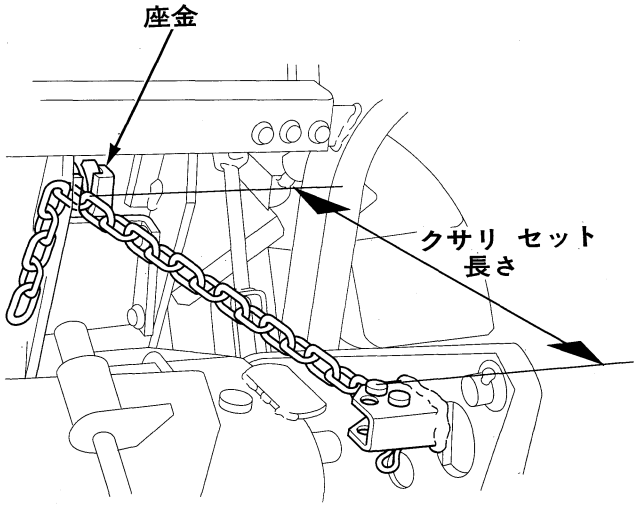


⚠警告

移動するときは、落下防止のためクサリを掛け、下降調整ノブを〝おそい〟（右方向）いっぱい回し油圧をロックしてロータリを固定してください。必ずロータリが落下しないことを確認してください。

クサリでの深さ調整

耕うん深さは、座金に引っかけるクサリの位置を変更して調整します。



調整のしかた

クサリ セット長さを長くする……耕深が深くなる。

クサリ セット長さを短くする……耕深が浅くなる。

取扱いのポイント

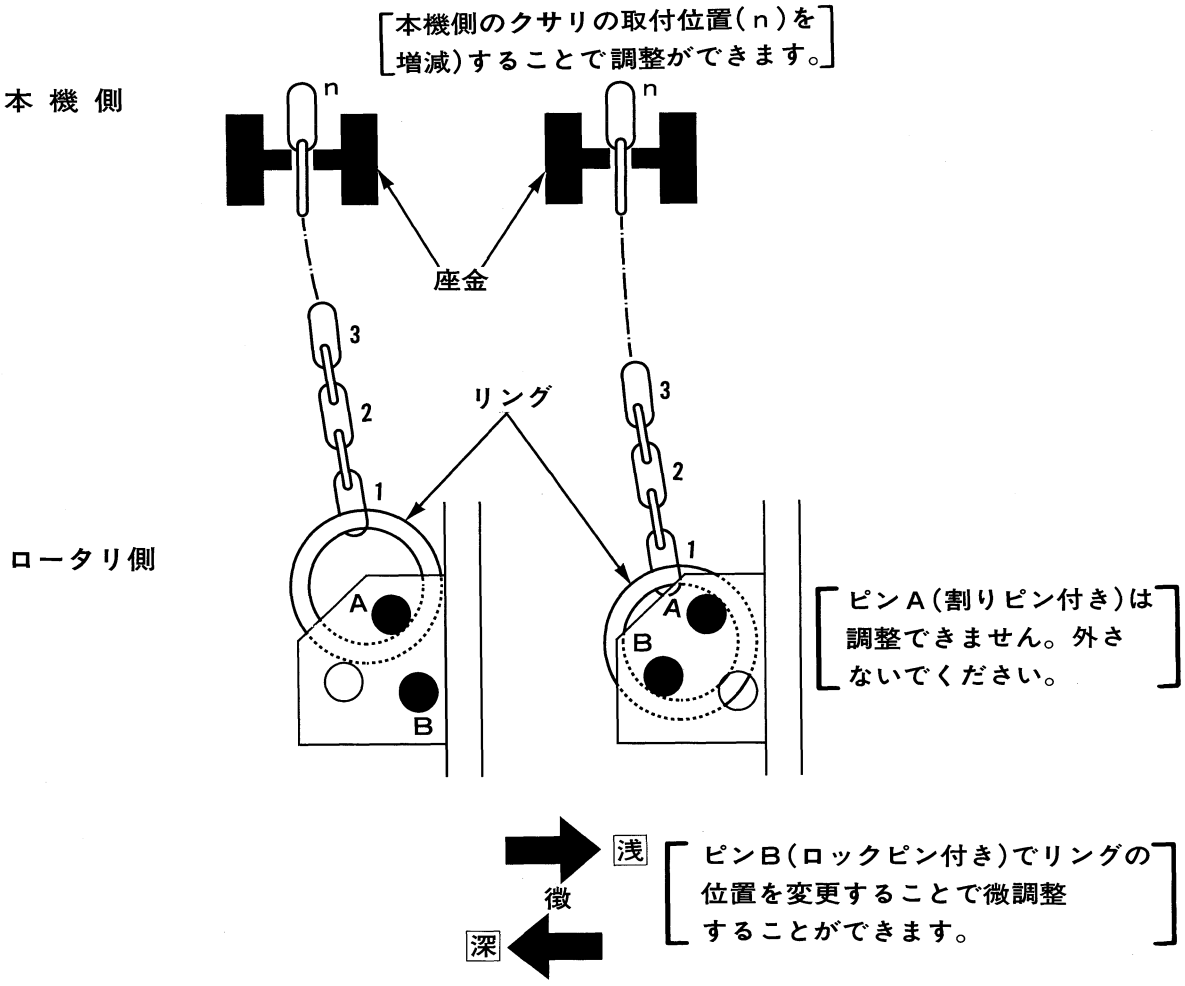
・クサリを使用しないときは、クサリ掛けに引っかけてクサリが車輪などに巻込まれないようにしてください。

クサリの長さ調整

クサリのセット長さの調整は、本機側とロータリ側で調整できます。

本機側；クサリ一つで 50mm 変化。

ロータリ側；ピンＢの使用で 25mm 変化。

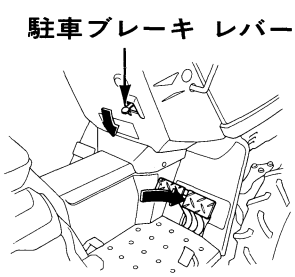


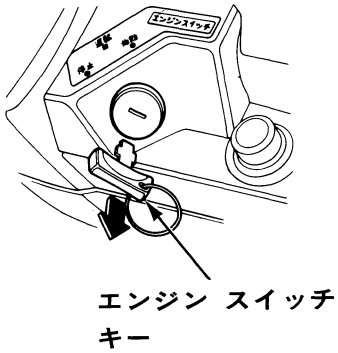
ロータリ爪

■ロータリ爪の交換

⚠警告

- **トラクタを平坦な場所に停止し、落下防止のクサリを掛け、ロータリを固定して、ロータリが落下しないことを確認してください。(21頁参照)**
- **下降速度調整ノブの〝おそい〟(右方向)の締付けが不十分な場合、油圧リフト レバーを〝下降〟に倒すと、エンジンが停止していてもロータリは下降します。ロータリの下に身体を入れると、はさまれて大ケガをする可能性があります。下降速度調整ノブは確実に締付けてください。**
- **トラクタから降りるときは、駐車ブレーキをロックして、PTO軸変速レバーが〝中立〟の位置になっていることを確認し、エンジンを停止してください。誤ってエンジンを始動しないようにエンジン スイッチ キーを抜いてください。**
- **ロータリ爪の交換を行うときは、必ず皮手袋などの丈夫な手袋をしてください。ロータリ爪でケガをするおそれがあります。**

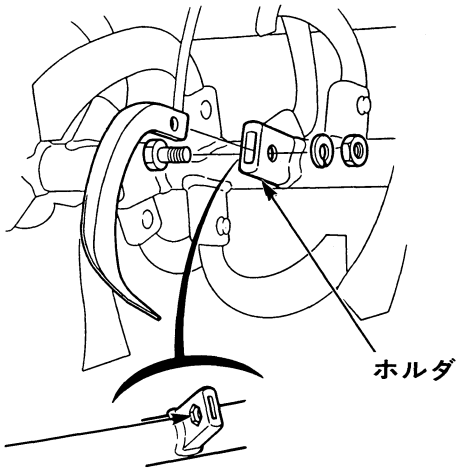




17mmメガネ レンチでナットを外し、ボルトとワッシャを外します。爪をホルダから取外します。

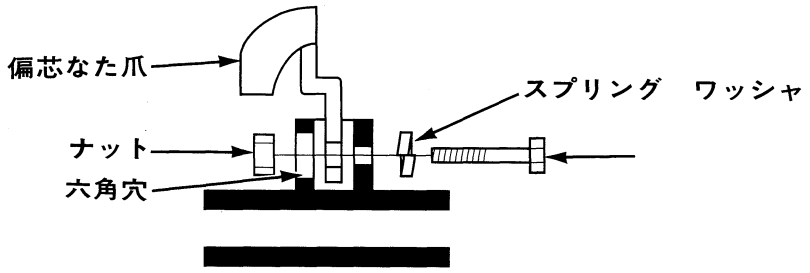
取付けはホルダの六角穴にボルトの頭を入れナットを確実に締め付けます。

ただし、チェーンケースとなりの4本はホルダの六角穴にナットを入れ、ボルトを確実に締め付けます。(28頁参照)

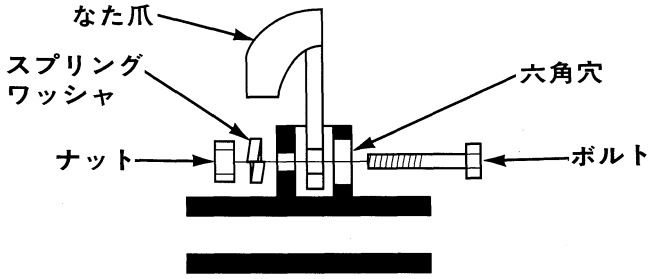


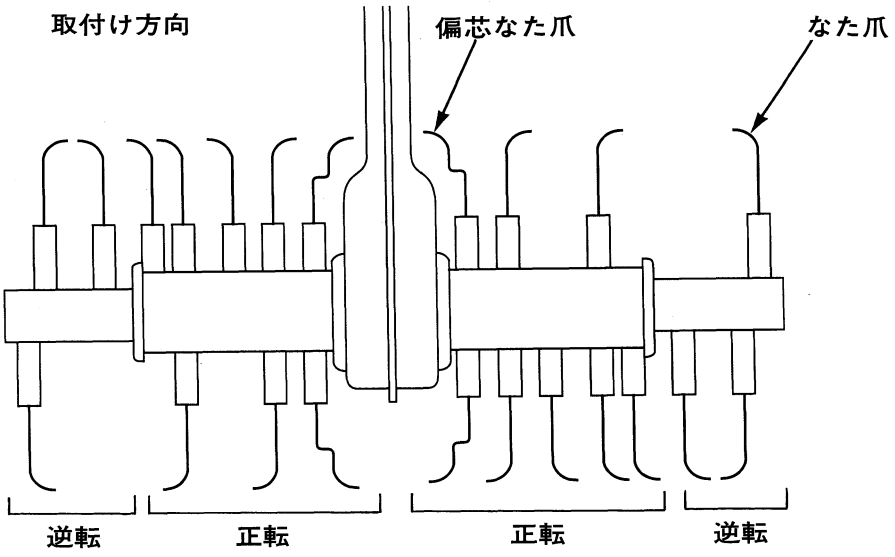
■ロータリ爪の取付け方向

チェーンケースとなりの爪ホルダに偏芯なた爪を左右2本ずつ(合計4本)、曲がり方向が内側を向くよう取付け、ナットを六角穴に入れボルトにスプリング ワッシャを組付けて取付けます。



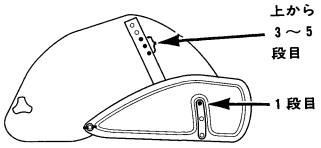
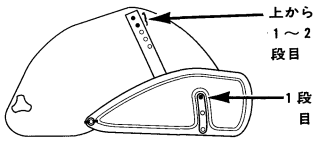
その他のなた爪は六角穴にボルトを差込んで締め付けます。なた爪の向く方向はボルトを差し込む方向と同じです。





耕うん方法

耕うん方法は作物やほ場の条件によって異なります。それぞれのほ場に応じた作業方法を工夫し安全かつ能率的な作業を行ってください。以下に標準的な耕うん方法を示します。作業の目安にしてください。

作業内容	車速レンジ	PTOレンジ	サイドカバー	リヤカバー　※
深　耕 （荒起し） 耕深25～30cm	1	低		上げる 加圧ロッド ロック ピン  上：上から4段目 下：下から4段目
整　地 （砕　土） 耕深20～25cm	1	高		下げる （加圧ロッドのスプリングを充分に効かせる） 加圧ロッド ロック ピン  上：上から1段目 下：下から7段目

※加圧ロッド ロック ピンの位置は、尾輪オプション装着していない場合の目安です。尾輪オプションを装着している場合は、尾輪の耕深調整位置に応じて、加圧ロッド ピンを調整してください。

耕うん順序

以下に一般的な耕うん順序を示します。

①図１のような順序で片ブレーキを使い、信地旋回により隣接耕を行い、枕地（周囲）は回り耕で仕上げます。

②軟弱ほ場では図２のように片ブレーキを使わずに一畦おき耕を行うと、土寄せが少なく仕上ります。

ほ場条件により複数掛けを行う場合には、２回目以降を前回の耕うん方法に直交する方向で行ってください。

図１　隣接耕の順序

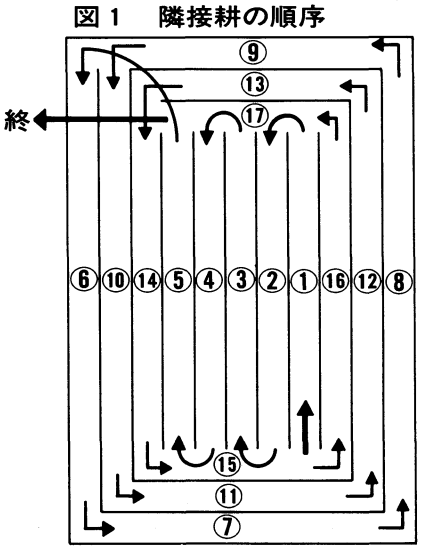
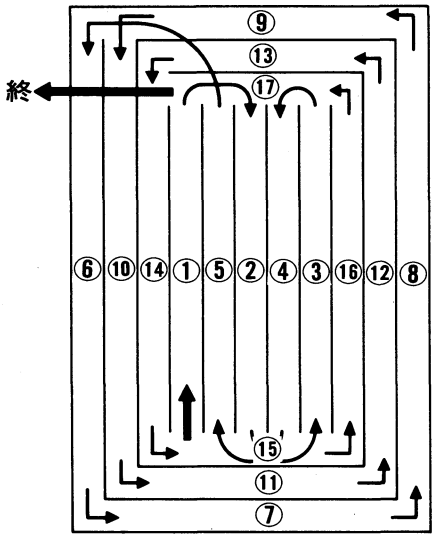
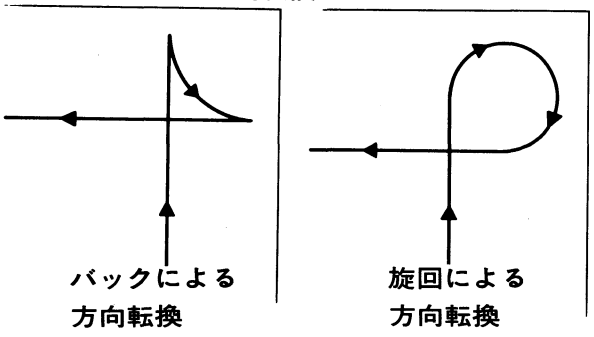


図２　一畦おき耕の順序



方向転換のしかた



作業時のロータリの上昇方法

耕うん作業時にトラクタの油圧リフトレバーを操作してロータリを上昇させる場合は以下の方法で行ってください。

・ロータリを回転させながら上昇させます。

・ロータリの回転を止めて上昇させる場合はPTO変速レバーを中立にし、トラクタをゆっくり前進させて、ロータリをいったん土中より引きずり出してから上昇させます。

上記の方法を行わないと、ロータリを上昇できない場合があります。

取扱いのポイント

ロータリが上昇できない状態で、油圧リフトレバーを〝上昇〟位置に保持し続けないでください。トラクタの油圧装置の故障の原因となります。

やさしい点検、整備

⚠警告

- **手入れを行うときは、トラクタを平坦な場所に停止し、落下防止のクサリを掛け、ロータリを固定して、ロータリが落下しないことを確認してください。(21頁参照)**
- **下降速度調整ノブの〝おそい〟(右方向)の締付けが不十分な場合、油圧リフトレバーを〝下降〟に倒すと、エンジンが停止していてもロータリは下降します。ロータリの下に身体を入れると、はさまれて大ケガをする可能性があります。下降速度調整ノブは確実に締付けてください。**
- **トラクタから降りるときは、駐車ブレーキをロックして、PTO軸変速レバーが〝中立〟の位置になっていることを確認し、エンジンを停止してください。誤ってエンジンを始動しないようにエンジン スイッチ キーを抜いてください。**

・手入れや修理には必ずホンダ純正部品を使用してください。

定期点検表

点検項目＼点検時間	作業前点検	初回 20時間目	50時間 運転毎	100時間 運転毎	300時間運転毎 または1年に1回	参照 ページ
チェーン ケース オイル 交換		○		○		32
ロータリ爪のゆるみ 点検	○					22・28
各部のゆるみ 点検	○					22
各部給油及びグリース塗布					○	34

チェーン ケース オイルの交換

《交換時期》初回：20時間目、以後：100時間運転毎

推奨オイル：ホンダ純正①ウルトラ ネオ汎用機用(SAE30)

②ウルトラ-U<2輪車用>(SAE10W-30)

またはAPI分類SE、SF、SG級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。

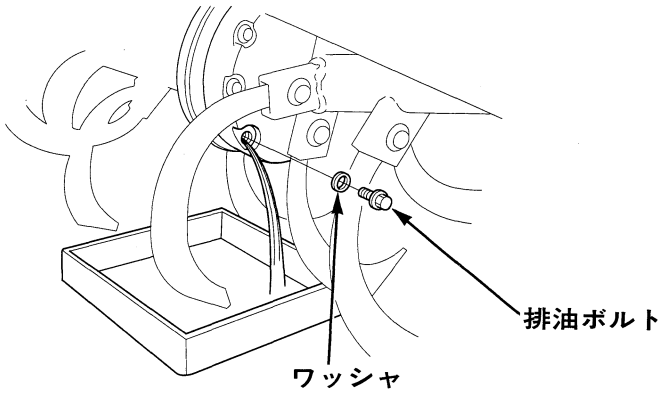
取扱いのポイント

- **低温時(気温10℃以下)では、ホンダ純正ウルトラ-U<2輪車用>のSAE10W-30のオイルを使用してください。**
- **寒冷時(気温－15℃以下)では、API分類SE、SF、SG級相当のSAE5W-30のオイルをご使用ください。**
- **オイル給油キャップ、排油ボルトは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。**

《規定量》7.8ℓ

《交換のしかた》

1. 平坦な場所に本機を止め、ロータリを地面より10～20cmの高さまで降ろし、落下防止をします。
2. チェーンケースの下にオイル受けを置きます。
3. 排油ボルトとワッシャを外し、オイルを抜きます。(給油キャップを外すと早くオイルが抜けます。)
4. オイルが抜けたら排油ボルトを確実に締付けてください。このときワッシャは新しい部品に交換してください。

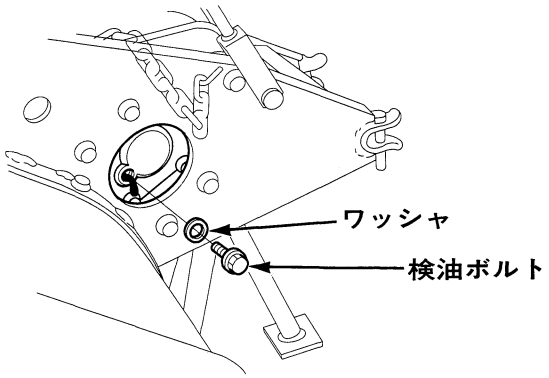


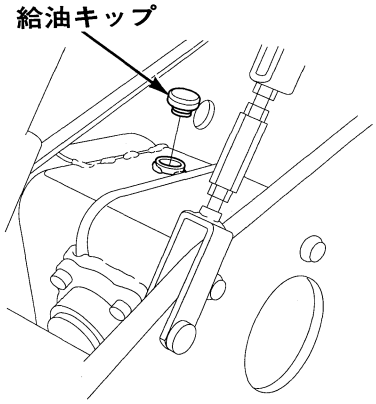
取扱いのポイント

交換後のオイルは、ゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。処理方法は法令で義務づけられています。法令に従い適正に処理してください。不明な場合は、購入先にご相談のうえ処理してください。

5.オイル受けを取除き、ロータリ爪を地面に接地させます。

6.検油ボルトと給油キャップを外し、検油ボルトの穴の口元まで新しいオイルを給油します。給油は少しずつ、ゆっくり行ってください。





7.給油後、検油ボルトを確実に締付けてください。このときワッシャは新しい部品に交換してください。

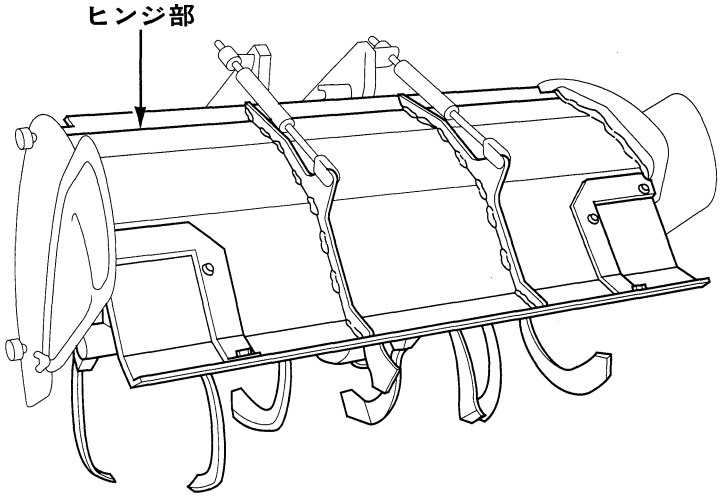
8.給油キャップを確実に締付けてください。

各部の清掃

使用後、ロータリについた土や泥を洗い落してください。

特にリヤ カバーのヒンジ部は土がたまりやすいので十分清掃してください。

長期間保管する場合は、清掃後、水分をよくふきとり乾燥させてから保管してください。



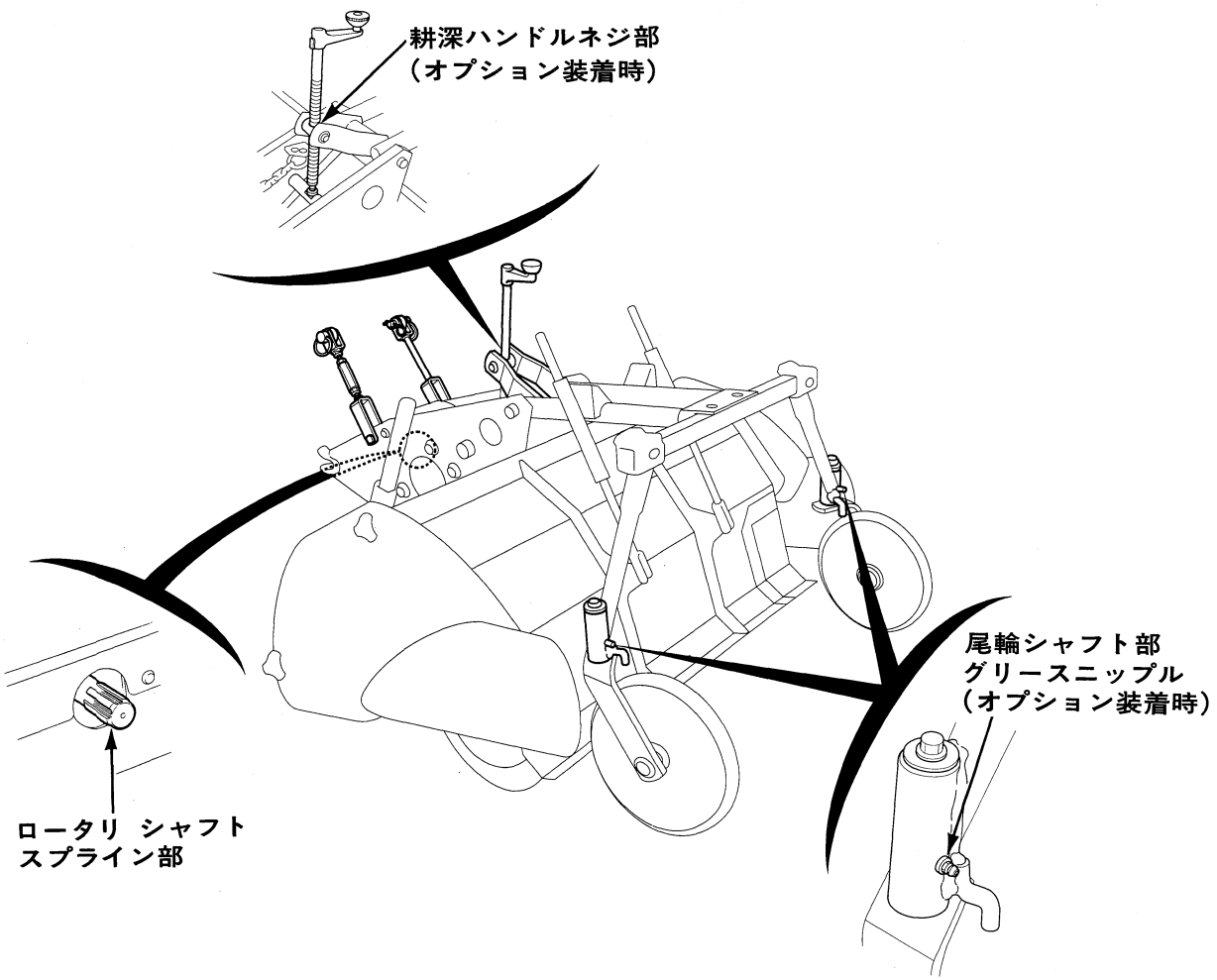
各部の給油およびグリース塗布

《給油時期》300時間毎または１年に１回

指示箇所にグリースを塗布してください。

使用グリース：マルチパーパス グリース

・ロータリを洗浄したあとは、給油箇所を点検し、必要な場合は給油してください。



故　障　の　と　き　は

むやみに分解しないで、はやめにお買いあげ販売店で点検整備をしてもらうことがロータリを長持ちさせる秘けつです。

1．ロータリが上げ下げできないときは

・下降速度調整ノブは開いてますか。　→下降速度調整ノブを開き速度を調整してください。速度調整は下降のみできます。(24頁参照)

・リフト レバーが〝**中立**〟になっていませんか。　→リフト レバーを作業に合わせて操作してください。

・油圧切換レバーが〝**後**〟の位置になっていますか。　→油圧切換レバーを〝**後**〟の位置にしてください。

・油圧用オイルは入っていますか。　→オイルを規定量入れてください。

2．爪軸が回転しないときは

・ユニバーサル ジョイントは正しく装着されていますか。　→正しく装着してください。(18頁参照)

・PTO変速レバーが高速または低速に入っていますか。　→レバーが中間位置だと爪軸は回転しません。確実に高速または低速に入れてください。

尾 輪 の 使 い か た（アタッチメント）

尾輪の取付け、取外し

⚠警告

- 尾輪の取付け、取外しを行うときは、トラクタを平垣な場所に停止し、ロータリを接地させ、エンジンを停止してください。
- トラクタから降りるときは、駐車ブレーキをロックして、PTO変速レバーが〝N〟の位置になっていることを確認し、エンジンを停止してください。誤ってエンジンを始動しないようにエンジンスイッチ キーを抜いてください。

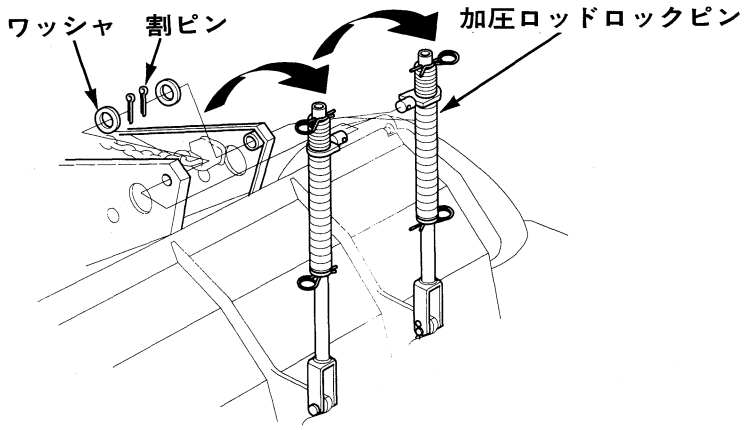
⚠注意

折りたたみ式安全フレームを装備した本機に尾輪を装着した場合、安全フレームを折りたたんだ状態でロータリを上昇させると、安全フレームと尾輪が干渉することがあります。ロータリと安全フレームが干渉しないように油圧リフトレバーを操作して、ロータリの上げ高さを調整してください。

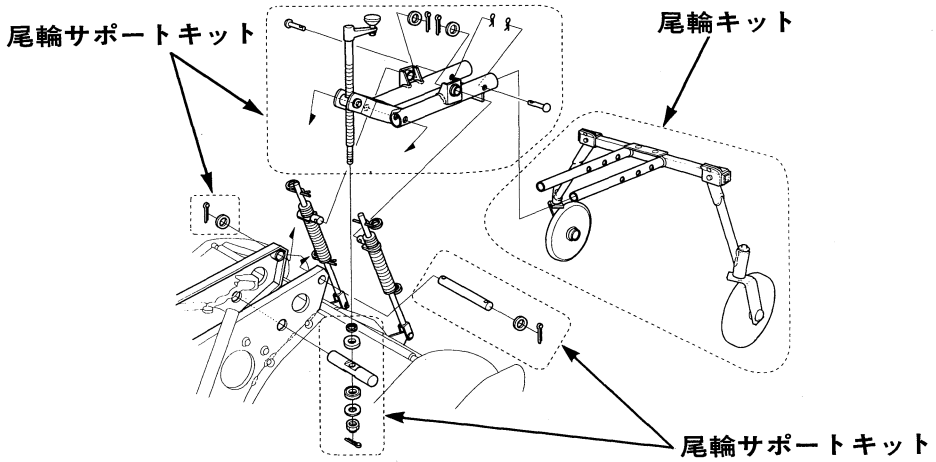
1.本機を平垣な広い場所に置き、周囲の安全を確認してください。

2.ロータリを下降させ、エンジンを停止し、キーを外してください。

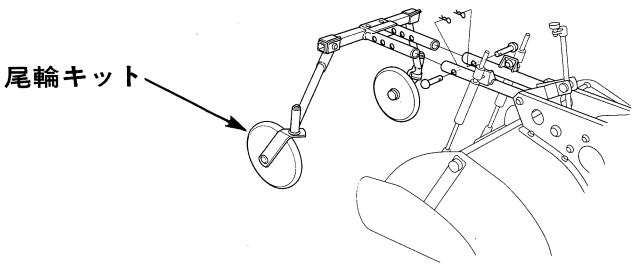
3.加圧ロッド ロック ピンの上側を外します。（割ピン以外は再度使用します。）



4.尾輪サポート キットと尾輪キットを組付けます。（割ピン以外は再度使用します。）



5.尾輪キットのホイール パイプ部をロータリ側に差し込み、取り付けます。



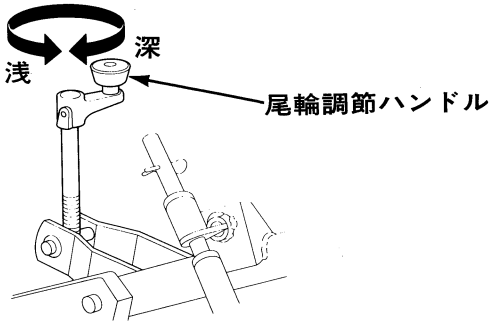
取外し

尾輪を使用しないときは、ロータリから尾輪キットを外します。

尾輪の使いかた

尾輪調節ハンドル

尾輪調節ハンドルを回わすことにより耕深が調節できます。

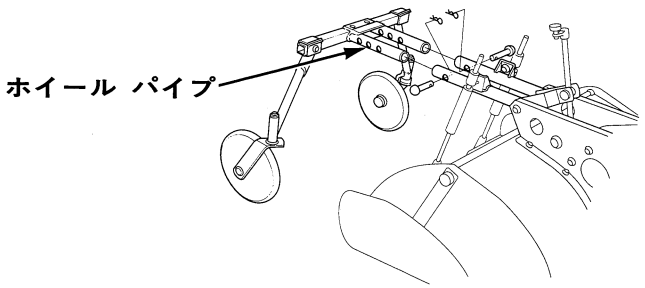


ホイール パイプ

作業に応じて尾輪の位置を調節します。 3段階に調節することができます。

⚠警告

- **尾輪の位置を調整するときは、トラクタにロータリを取付けた状態で、油圧リフト レバーでロータリを上昇させ、落下防止用のクサリを掛けて下降速度調整ノブを〝おそい〟(右方向)にいっぱい回し油圧をロックしてください。(21頁参照)**
  油圧リフト レバーを〝下降〟側に倒して、ロータリが落下しないか必ず確認してください。確認後油圧リフト レバーを〝中立〟の位置に戻してください。
- **PTO軸変速レバーを〝中立〟の位置にしてエンジンを停止してください。エンジンをかけた状態での作業は、大ケガをするおそれがあります。**

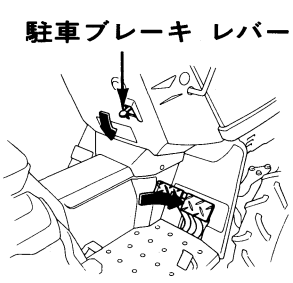


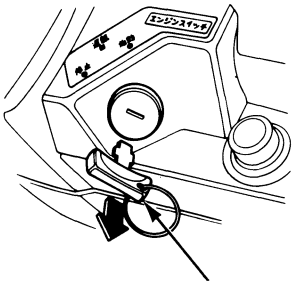
残耕処理刃（アタッチメント）の使いかた

残耕処理刃の取付け、取外し

⚠警告

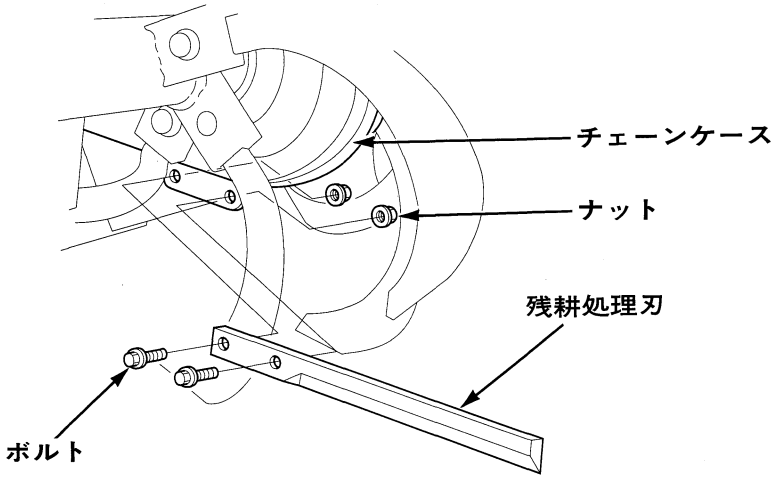
- トラクタを平垣な場所に停止し、落下防止のクサリを掛け、ロータリが落下しないことを確認してください。（21頁参照）
- 下降速度調整ノブの〝おそい〟（右方向）の締付けが不十分な場合、油圧リフトレバーを〝下降〟に倒すと、エンジンが停止していてもロータリは下降します。ロータリの下に身体を入れると、はさまれて大ケガをする可能性があります。下降速度調整ノブは確実に締付けてください。
- トラクタから降りるときは、駐車ブレーキをロックして、PTO軸変速レバーが〝中立〟の位置になっていることを確認し、エンジンを停止してください。誤ってエンジンを始動しないようにエンジン スイッチ キーを抜いてください。
- ロータリ爪の交換を行うときは、必ず皮手袋などの丈夫な手袋をしてください。ロータリ爪でケガをするおそれがあります。





取付け

14mmメガネ レンチでチェーン ケースにボルトとナットでしっかり取付けます。

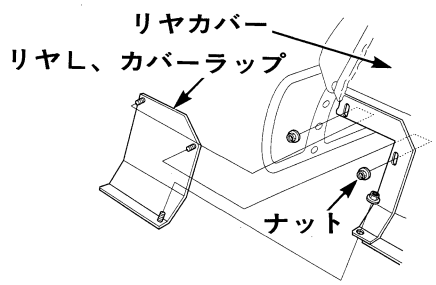


取外し

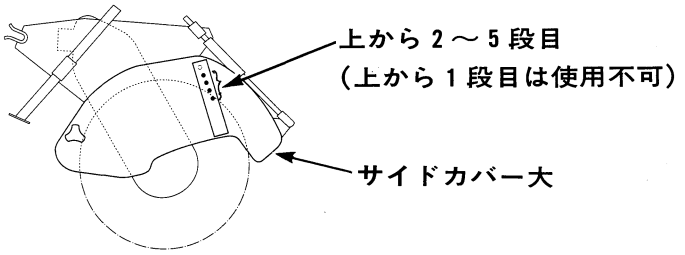
14mmメガネ レンチでボルトとナットを外し、取外します。

エクステンション カバー(アタッチメント)の取付けかた

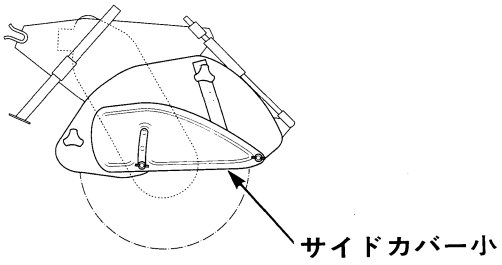
1. ロータリのリヤカバーの両端にあるリヤ L.R カバー ラップを外してください。



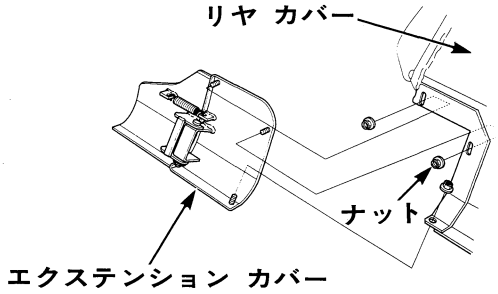
2. サイド カバー大を作業に応じて上から 2 ～ 5 段目に取付けます。1 番上の穴はエクステンション カバーとサイド カバーが干渉するので取付けできなくなります。



3. サイド カバーを取外して、左右交換し前後を逆向きに取付けます。前後を逆向きに取付けないとエクステンション カバーとサイド カバー小が干渉します。



4. エクステンション カバーを組立て、リヤ カバーに取付けてください。



主　要　諸　元

名称		R1000CD
型式		RZDW
全長		※1060mm
全巾		1145mm
全高		※850mm
重量(整備)		150kg
爪径		600mm
有効耕深		300mm
爪本数	普通爪	右／左　各9本
	偏心爪	右／左　各2本
ロータリ	駆動方式	センタドライブ
	装着方式	2点リンク
	耕幅	1000mm
	爪回転軸数 1	105rpm
	爪回転軸数 2	195rpm
	爪軸回転方向	正転/逆転同時

※全長、全高はコンクリート地面に爪を接地させPTO入力軸を水平した状態の寸法です。
諸元は予告なく変更する場合があります。

HONDA
本田技研工業株式会社
東京都港区南青山2—1—1

30752R00
00X30-752-R000

Ⓢ

Ⓝ3009809